

障がいのある子どもの家族への援助行動設定が与える  
当事者および・きょうだいのコミュニティ行動における相互関係への影響

The Effects of Helping Behavior by the Child with disability to the Family members  
On the Mutual Social Community Behavior in Home.

高木 玉江 ・ 望月 昭

TAKAGI Tamae and MOCHIZUKI Akira

(立命館大学応用人間科学研究科)

(Graduate School for Science of Human Services , Ritsumeikan University)

Key words: 家族 QOL 拡大 きょうだい 障がい児 コミュニティ

目的

家庭内で模擬就労体験をすることで、報酬を得ることができる状況を環境設定する。その中で、障がいのある子どもがきょうだいを援助することで家族間の発言や行動にどのような変化が見られるかを実践的に検討していく。本研究は、対象児が模擬就労体験としてバスの送迎を行なうことで、障がい児が援助されるだけでなく、障がい児が主体となり、バスの送迎の課題分析をもとに、バス送迎の正反応率の変化とバス送迎期間の言語量の変化をもとにきょうだい関係に効果があるのかを検討する。そして、バス送迎において対象児の社会的スキルアップに繋がり般化維持できるかどうかをみていく。もう一つの家庭内模擬就労体験として家庭生活内のお手伝いを行い、きょうだいの中で障がい児が主体となる行動を介入することにより、きょうだい間の相互関係に変化は観られるのか検討する。

方法

本研究はきょうだいの発言行動の変化を観察記録していくことをベースに、2つの操作をいれることから構成された。2つの操作として、まず1つは(A)障がい児がきょうだいをバスに乗せて駅まで送迎していく仕事を実施され、もう1つは(B)家庭内の家事仕事、お手伝い仕事として実施された。

結果

地域の交通機関を使用して、障がい児が主体となる行動を介入することにより、きょうだい間の関係に変化は見られた。そして、家庭内でのお手伝い行動を障がい児とともにきょうだいと行い、障がい児がきょうだいに援助することできょうだい間の発言・行動が増加した。障がい児ときょうだいの相互関係についても変化がみられた。当事者においてより多くの向社会的な行動が増大することが示された。得られた報酬を、障がい者自身の趣味や好きなものを使うことで、自ら地域へ出向くことになり、障がい児と地域の人との関わりの中で新たな相互

関係も生まれた。

考察

社会の中に積極的に参加することで障がい児が自らの生活の質を向上でき、障がい児が家庭内の仕事で得られた報酬での社会参加への般化ができた。家庭システムの中に社会性スキルを高める行動を介入することで、家族システム内でのコミュニケーションの変化、家族システム内の障がい児・親・きょうだいの行動、心理面に変化がみられた。家族内でスタートした契約的社会関係が、さらに地域の人との相互関係を促進し、そこではさらに障がい児自身が、社会的環境を援助者と上手く使いながら、地域と共に社会的環境を整備していく作業に積極的に関わる、すなわちキャリアアップに繋がっていく過程が示された。報酬を得ることで、障がい児は新たな社会行動を生み出していき、このような家庭内の研究から始まった「役割と報酬」を実現する支援から、当事者の将来の就労をも見据えたキャリアアップの支援が展望できた。

参考文献

- 赤根昭英(1995)知的障害を持つ児童の支払い行動の形成と地域の関わり.行動分析学研究,8(1),49-60  
望月昭(1995) ノーマライゼーションと行動分析:「正の強化」を手段から目的へ.行動分析学研究,8(1),4-11  
難波寿和・飯原有喜・岩橋由香・井上雅彦(2006)発達障害児のきょうだい児に対する攻撃行動への行動論的アプローチ-家庭場面への指導の効果の検討-発達心理臨床研究 12, pp119 - 127  
丹生卓也・雀希恵・望月昭(2007)養護学校生との就労実習場面における金銭管理.行動分析学会大会発表  
渡部匠隆・上松武・小林重雄(1990)発達障害児のサブバイバルスキル訓練-買い物スキルの課題分析とその形成技法の検討.特殊教育学研究 28(1),21-31  
大河内浩人・武藤崇(2007)行動分析,ミネルバ書房